特集 オリンピック選手が事前キャンプでみやま市へ

みやま×グアム・ミクロネシア連邦オリンピック選手団

問社会教育課 社会教育係（TEL32・9182）

7月23日に開幕した東京2020オリンピック競技大会。

市は、オセアニアオリンピック委員会（ONOC）に所属する国や地域のホストタウンとして、7月2日から7月19日まで、グアムとミクロネシア連邦の水泳競技選手4人、コーチ2人の事前キャンプを受け入れました。

選手たちは、選手村へ入村するまでの間、オリンピックに向けた最終的なコンディション調整や日本の気候に慣れるため、筑後広域公園屋外プールで練習、旧本郷小学校でのウエイトトレーニングなどを行いました。

※ホストタウンとは

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に地域の活性化などに活かしていく取り組みです。事前キャンプなどを通じ大会参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る自治体のことです。

ミクロネシア連邦　グアム

【選手の紹介】前列右から
ジャガー スティーベンズ 23歳:グアム代表:出場種目:男子100メートル自由形
ミネリ ゴメス 20歳:グアム代表:出場種目:女子100メートル自由形
タシ リムティアコ 27歳:ミクロネシア連邦代表:出場種目:男子200メートル個人メドレー
テアナ アダムズ19歳:ミクロネシア連邦代表:出場種目:女子100メートル平泳ぎ

感染対策を講じながらのキャンプ受け入れ

新型コロナウイルスの感染状況や感染リスクを考慮して、選手村へ直接入村するために事前合宿を中止する国や自治体が相次ぐなか、市は、今までの経過や市民の皆さんに「世界を感じてほしい」という思いから、細心の注意を払い受け入れる体制を整えました。選手は毎日PCR検査を受け、移動は専用バスでホテルと練習会場のみ。外部との接触を避ける「バブル方式」での受け入れとなりましたが、最高のパフォーマンスができるよう支援をしました。

旧本郷小学校でのウエイトトレーニング

Point 【オセアニアオリンピック委員会ONOCに所属するオセアニア15の国や地域】

①アメリカ領サモア②キリバス共和国③グアム④クック諸島⑤サモア諸島⑥ソロモン諸島⑦ツバル⑧トンガ王国⑨ナウル共和国⑩バヌアツ共和国⑪パプアニューギニア独立国⑫パラオ共和国⑬フィジー共和国⑭マーシャル諸島共和国⑮ミクロネシア連邦

市ホームページ

■いままでの経過

2018年4月	**ホストタウン登録** 福岡県、みやま市、柳川市、みやこ町、築上町と合同でオセアニアオリンピック委員会（ONOC）に所属するオセアニア15の国や地域のホストタウンとして国に登録
2018年9月	**事前キャンプ受け入れ（水泳競技）** グアムからの1人、トンガ王国からの2人が筑後広域公園プールでトレーニング
2019年9月	**事前キャンプ受け入れ（水泳競技）** トンガ王国からの2人が筑後広域公園プールでトレーニング
2020年1月	**ONOCホストタウン中学生の海外派遣事業** 市内中学生2人がグアムのホゼ・リオス中学校を訪問し、環境に関する講義の受講や生徒同士の交流を実施
2020年2月	**太平洋島しょ国ホストタウン青年プロジェクト事業** マーシャル諸島共和国、パプアニューギニアから青年2人を市内で受け入れ、山門高校の生徒とともに交流
2021年7月2日から7月19日	**オリンピック事前キャンプ受け入れ** 選手たち、また市民の皆さんが安心してキャンプを迎えられるように、国が示す方針に従い新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら事前キャンプを受け入れ

市民レベルでの「おもてなし」

瀬高保育園園児たちから

瀬高中学校生徒たちから

市民の皆さんから

7月16日：手づくりの横断幕を持って応援（山門高校）

7月8日：プールの観覧席から選手にエールを送る（瀬高中学校）

瀬高中学校・山門高校の生徒たちが練習を見学

当初は、選手と市民の皆さんとの国境を越えた交流イベントなどを開催する予定でしたが、新型コロナ感染防止の観点からさまざまな制約がありました。選手団と直接触れ合う交流は叶いませんでしたが、市内の中学生や高校生が距離をとってプールサイドから応援できる機会を設けました。

生徒たちは手作りの横断幕による応援や思いを込めたメッセージ色紙を選手たちに贈呈するなど、貴重な交流をすることができました。また、オリンピック選手の泳ぎを直接見ることができたことは生徒たちにとって、世界との接点を感じる貴重な経験になりました。

制約の中で国境を越えた「おもてなし」

また、市民の皆さんからは、選手の健闘を願うプレゼントが贈られるなど、制約がある中での「おもてなし」も行われ、あらたな絆が芽生えたことはかけがえのない財産になりました。

夢の舞台へ。そして平和の祭典が生んだレガシー

みやま市内で本番に向けた最終調整を終えた選手たちは、7月19日にオリンピック選手村へと出発しました。開会式のテレビ放送ではグアム選手団の紹介で福岡県みやま市で事前キャンプをした事がアナウンスされ、広く「みやま」の名前を知ってもらえる機会となりました。決勝に進むことはできませんでしたが、ミクロネシア連邦のテアナ アダムズさんが、女子100㍍平泳ぎでミクロネシア連邦新記録となる泳ぎをみせてくれました。

感染症対策が難しい中ではありましたが、選手と市民の交流や、生徒たちとの心の触れ合いは、世界に目をむける大きなきっかけになりました。スポーツへの関心を高めるとともに国際理解の推進を図ることができたことは市にとって大きな進歩となりました。

パラリンピック採火式

「みやまんでんき」から「和ろうそく」へ

8月13日、山川支所で東京2020パラリンピック聖火の採火式が行われました。採火では、みやまスマートエネルギー株式会社の電気「みやまんでんき」から生まれた「みやまん火」が、市の特産品である木蝋（もくろう）で作られた和ろうそくに灯され、市身体障がい者福祉協会の秋原会長が和ろうそくの聖火をランタンへ移しました。聖火は県内の自治体で灯した聖火と合わさり、東京で一つの「聖火」となり大会を盛り上げています。

和ろうそくから採火する
秋原会長（写真左）